OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	語文　第2輯　編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 1951, 2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68374
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編輯後記

思はぬ二三の手違ひのために遅刊するに至つたことを遺憾に思ふ。本誌も第二輯をへて今後どのやうな性格を形作つてゆくのであらうか。もとより編輯者の努力に関はることであるが、本誌のやうに一般の寄稿の上に立たうとするものでは、人々の御協力にまつことも頗る多い。もし一つの立場方法を中心として持続的に、しかも共同的に検討され発展させられてゆく研究の機構が樹立されてをり、それを背景として明確な方法に貫かれた学術雑誌があるとすれば、それは誠に有意義なことであらう。しかしさうしたものゝ出現が俄かに望まれないとすれば、夫々の手続方法において優れたものを偏らず収めて、容易に一つの性格を與へようとしない方がむしろ正しいと思ふ。事実学術雑誌の多くはそれであり、従つて個々の性格は編輯者がみづから主張するといふより、おのづから作られたものであり、中には多少の色合の相違といふべきものも少くないであらう。本誌もみづから性格を主張しようとは考へない。たゞ学術論文の多くが極めて少数の同学をのみ予想し、限られた学界の内部に閉ざされてゐるかに見えるのに対しもう少し広い外部にまで、つまり専門の研究者ばかりでなく、国文学に関心を寄せ、あるいはその研究よりも実践面により多くの力を割かれてゐる人々をも繋ぎうるやうな編輯は出來ないかと望むのである。もとより専門の研究を何の用意もなしに会得しようと思ふのは誤りであるが、また何の用意もなくそれに道をつけようとすることも徒労であるし不遜でもあらう。しかしもし道があるとすれば、それは我々の研究が常に支へられてゐる根源的な関心—文学といふことについて、言語について、また現実が古典にぶつかる時に体感されるあの一致と乖離との、いはゞ歴史的関心、さういふ基底で結ばれること以外にはないであらう。これは單に専門の内と外とを結ぶばかりではない。同じく国文学を研究してゐても、少し専攻の範囲がずれるともう共通の話題を失ふのが我々の日常の経験であるが、それは相互の研究対象や方法の間の連関や秩序に対する反省の不足を教へ、促すとともに、また人々にとつては屢素撲とも見えるらしいかういふ根源的な関心に新しく突き戻されるべきことを考へさせるのではないかと思ふ。——かういふ意図が少しづつ本誌の上に実現されてゆくことを念願する。

本誌の題字は蟯峨本徒然草から集字したがそれについて京都の鈴鹿三七氏の御助力を得たことを深謝したいと思ふ。（田中）

西鶴纂堂・記念館建立の計画　明年に西鶴の二百六十年忌をひかえて、大阪市天王寺区誓願寺内梟堂の修復、記念館・西鶴庵の建立が同寺によつて計画されている。

☒ 投稿規定 ☒

○直接購読者は投稿することができる。
○原稿の内容は国語・国文学、国語教育に関するものであること。分量は四百字詰原稿用紙二十枚以内とする。
○原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。
○原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
○採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に應ずる。
○一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

❖雑誌の寄贈・交換について
○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原 大阪大学文学部 国文学研究室宛に願いたい。

❖購読について
○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。（送金は振替を利用されたい）

一部　四十円　送料六円
一年分（四冊分）百六十円（送料共）
○五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

語文　第二輯

定價　四十円
送料　六円

昭和二十六年三月十五日印刷
昭和二十六年三月二十日発行

豊中市柴原
大阪大学文学部国文学研究室
編輯者　代表者　小島吉雄

大阪市南区横堀七丁目一九
発行者　前田春雄

大阪市西淀川区柏里町三ノ二九
印刷所　壽印刷株式会社

大阪市南区横堀七丁目一九
発行所　邦進社
電話船場(25)一九九〇番
振替大阪一一三一三五番